

# 道徳性の育成を目指す「関わり」を大切にした体育教材

代表 鈴木直樹 (芸術・スポーツ科学系 体育科教育学分野)

- 開発教材の形式： DVD
- 対象学校種： 小・中
- 実施可能教科等： 体育、道徳の時間等
- 関連する道徳の内容項目：
  - 基本的な生活習慣、勤勉努力・希望、
  - 思いやり・親切、信頼・友情等



## 教材内容の紹介

「体づくり運動」の教材を開発し、実際に教材を用いた実践を行った上で成果の高かった授業例として3つの実践例が、それぞれ各10分ずつ収録されています。

①中学年「からだを使って遊ぼう！」(体のバランスをとる運動)、②中学年「自分をワッショイ！友だちワッショイ！」(力試しの運動)、③中学校「体力を高める運動」(他者とのかかわり合いを通して、運動した感じから自己決定し、活動に意味付与を行う)。

これらの授業実践例には、それぞれに授業報告も収録されており、教材を使用する場合の具体的な授業作りの参考になるよう工夫されています。

その他にも、「体づくり運動」に関する約30の教材例が動画としてDVDに集録されています。実践例や教材例に関して指導者向けの解説も含まれており、汎用性の高い教材となっています。

## ➡ 開発のポイント

体育では、心と体を一体としてとらえた実践が希求されている。これは、構成主義的な学習観を導き、学習における身体とその感覚の重要性を暗示している(Light, 2008)。また、Begg(2001)が、「なっていくこと」が学習プロセスであると述べるように、身体そのものの変化プロセスとして学習をとらえることができ、学習内容を体や精神へと別々に還元することを拒否する。身体全てを投企して学ぶ体育では、行為し合う他者との間で生まれる「間」と「気遣い」のなかで身体そのものが学んでいくことであるといえる。すなわち、体育の実践を通して、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性は、共に育まれていくといえる。一方で、必要充足の運動として位置づいてきた「体づくり運動」では、トレーニングに陥りがちな傾向があり、体を客観的にとらえ、モノ化(心と体を分離)し、「かかわり」を阻害している状況にあるといえる。そこで、本ワーキンググループでは、小学校の「体づくり運動」に焦点をあて、体育の学習の中で、道徳性も養われていく心と体を一体としてとらえた「かかわり」を大切に「体づくり運動」の教材開発を目指した。

## 道徳性の育成を目指す「かかわり」を大切にした体育教材

### ～構成主義に基づく「体づくり運動」の授業づくり～

鈴木直樹（健康スポーツ科学講座・准教授）・成家篤史（お茶の水女子大学附属小学校・教諭）・  
松本大輔（西九州大学・講師 \*2年次）・上野佳代（附属小金井中学校・教諭 \*2年次）・  
大橋潔（広島県廿日市市立浅原小学校・教諭 \*2年次）・濱田敦志（千葉県千葉市立稲丘小学校・教諭 \*2年次）・  
細江文利（健康スポーツ科学講座・前教授 \*1年次）・内田雄三（白鷗大学・准教授 \*1年次）

#### 【ワーキンググループの概要】

体育では、心と体を一体として捉えた実践が希求されている。これは、構成主義的な学習観を導き、学習における身体とその感覚の重要性を暗示している（Light,2008）。また、Begg(2001)が、「なっていくこと」が学習のプロセスであると述べるように、身体そのものの変化プロセスとして学習を捉えることができ、学習内容を体や精神へと別々に還元することを拒否する。身体全てを投企して学ぶ体育では、行為し合う他者との間で生まれる「間」と「気遣い」の中で身体そのものが学んでいくことであるといえる。すなわち、体育の実践を通して、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性は、共に育まれていくといえる。一方で、必要充足の運動として位置づいてきた「体づくり運動」では、トレーニングに陥りがちな傾向があり、体を客観的に捉え、モノ化（心と体を分離）し、「かかわり」を阻害している状況にあるといえる。そこで、本ワーキンググループでは、小学校の「体づくり運動」に焦点をあて、体育の学習の中で、道徳性も養われていく心と体を一体として捉えた「かかわり」を大切にした「体づくり運動」の教材開発を目指した。

第1年次には小学校を対象とした教材開発を行い、その成果をリーフレットにまとめた。第2年次は、小学校低学年から中学校までを4つに区分し、発達段階に応じた教材例をDVDにまとめ視覚化を図ることを目指した。そこで、第1年次の研究を踏まえて道徳性の観点を整理し、それに基づいて小中学校4校で教材開発・実践に取り組み、教材例をDVDにまとめた。また、開発した教材を活用した授業を展開し、教材の有効性を検証するとともに、授業の様子をビデオでまとめ、教材例と共に、DVDの中にも含めることで、教師が教材研究として活用する際の手がかりとなるように工夫した。このDVDは、小中学校への無償配布を行う予定である。

#### <2年間の研究成果>

##### —第1年次—

子ども達は、運動の楽しさを味わう上で、勝敗や達成、克服の未確定性や動きの変化（動きくずし）のおもしろさを「感じる」という経験によって心と体を一体として運動に夢中になり、没頭していくと考えられる。そこでは、「勝つ」から、「できる」から楽しいのではなく、「勝つ/負ける」「できる/できない」という狭間の中で、動く「感じ」のおもしろさにふれていくことが、結果的には経験の総体として楽しさと感じられているといえる。また、この狭間の中でプレイしている子ども達は、同じような活動の繰り返しの中で、この均衡が崩れ、飽きを迎えることによって、行動を変化させようと試みるようになる。すなわち、運動することによって生まれる「感じる」ことから、運動のおもしろさにふれ、おもしろさを探求する中で、楽しさや飽和を享受し、学習を展開していくといえる。また、この「感じ」という暗黙裡に味わっている世界が、子どもたちが異質な出来事と出会う「かかわり」（異質協働の学び）によってある種の形式化した道徳的な「気づき」を生み出していくと考えた。さらに、このような実践を支えていく授業づくりのポイントを5点とした。

- ① 結果としての数字にとらわれすぎない。
- ② 「できない」ことを重視する。
- ③ 動きの心地よさを大切にする。
- ④ 「獲得」ではなく「生成」を目指した教材づくりをする。
- ⑤ 集団的実践としての学習形態にする。

そこで、動きの「感じ」と「気づき」を大切にしたい学びが生成していく教材を2つ開発し、その授業の成果と課題を明らかにした。その結果、かかわり合いの中に道徳的心情の変化を見出すことができた。

\*詳細の内容は、リーフレットを参照して下さい。

## —第2年次—

第2年次は、第1年次に明らかにした5つの授業づくりのポイントに基づいて、系統性を踏まえた教材開発を行うことであった。そこで、小学校低学年・中学年・高学年・中学校での実践を行い、道徳の価値項目における変化を検証した。

壺岐先生によって実践された中学年「からだを使って遊ぼう！」(体のバランスをとる運動)では、重点化した道徳の価値項目である「個性伸長」「思いやり・親切」において授業前と授業後で、10%水準ではありますが有意な差がみられます。また、この授業では、児童が運動を通して感じたことを他者にしっかり表現できたり、他者の呼吸を感じながら息を合わせた動きを体験したりすると、当然のごとく、児童が意欲的に運動に取組み、笑顔や歓喜の音が響く授業となり、お互いのかかわりを深めていきました。授業者は、実践を通して、このように児童が、他者と直接的に関わる運動を多く経験することで、ルールやマナーなどの道徳的価値に気付き、それを身に付けていくことを実感していました。

蛭澤先生によって実践された中学年「自分をワッショイ！ 友だちワッショイ！」(力試しの運動)では、重点化した道徳の価値項目である「思いやり・親切」「信頼・友情」において授業前と授業後で、0.1%水準の有意差がみられました。特に男子では「思いやり・親切」の項目において高い有意差があり、女子は「信頼・友情」の項目において高い有意差がありました。この授業では、身体をダイレクトに接触させ、他者を感じ、かかわりの中で変容していく学習への取り組みが道徳的価値の変化に大きく影響したと考えられます。

成家先生によって実践された高学年「くるりん パッ なわとびワールド」(巧みな動きをたかめる運動)では、「自由規律」「異性理解」「寛容謙虚」「役割責任」を重点化した道徳の価値項目としました。学習材とした「なわとびワールド」は自分たちのペースで挑戦課題を徐々に上げていくことができ、また、みんなで行う楽しさを享受しやすかったと思われます。一方、この学習材では葛藤場面は生まれにくく、話し合いこそありますが、大抵は意見がぶつかることもなく、おだやかに進んでいった為に、創造的に仲間と活動していくというよりは、仲間と息を合わせて活動することのおもしろさを味わう活動が中心となっていたように思われます。

上野先生によって実践された中学校「体力を高める運動」では、重点化した道徳の価値項目である「自由規律」「真理愛創意思想」「個性伸長」「信頼友情」「役割責任」において授業前と授業後で、4クラス中3クラスで1%水準、1クラスで5%水準の有意差がみられました。また、勝敗もなく成果も現れにくい運動であるにも関わらず、生徒が積極的に取り組んでいる様子には大変驚かされました。これは、他者とのかかわり合いを通して、生徒自身が自分を見つめ、運動した感じから活動を自己決定していくことで活動に意味付与がなされていたからと推測できました。さらに、次の単元の球技で、「アップも兼ねて、体力を高める運動を何か一つ、3分間やろう。」という指示を出しても、すぐに積極的な活動する姿を見ることができ、生徒たちが体を動かす心地よさや継続する必要性を理解していることを感じることができました。

これらの成果の高い教材を活用した4つの授業例については10分毎のビデオにまとめ、DVDに収録をしました。また、これらの授業報告も収録されていますので、具体的な授業づくりをする上で活用頂ければと思います。なお、これらの授業実践の成果に基づき、道徳の価値項目と関連させながら、約30の教材例を動画としてDVDに収録をし、小中学校の先生方が教材研究で活用できるようにしました。

\*詳細は当日配布の授業報告及び教材DVDを参照下さい。

## <まとめ>

本プロジェクトでは、1年次に道徳性の育成に資する体づくり運動の教材の基礎的条件を検討し、実践から明らかにしました。2年次には、この考えを系統性という視点から整理し直し、実際の教育現場で日常的に活用が可能になるようなDVDを作成してきました。その結果、教材の有効性を複数の授業において検証することができ、そこで得た成果に基づきながら、系統性を踏まえた価値項目に従って整理した教材例を数多く考案することができ、それらを動画資料として整理をすることができました。今後は、本研究の成果物であるDVD教材の活用事例を蓄積し、道徳性を育む体づくり運動の授業づくりに取り組んでいきたいと考えております。